

一般質問

議席10番 田山 文雄 議員



○人口減少時代について

Q、当町における各世代別の人口の推移について、今後の課題と取組みについて。

A、平成17年の国勢調査と平成25年における常住人口を比較すると約5・3%の減となり、年代別では、20歳代が24・3%、30歳代が12・1%、40歳代が1・7%、50歳代で22・8%の減、一方60歳代で34・9%、70歳以降で11・9%の増となっている。人口減少状態が続いた場合、経済への悪影響や税収の減少による住民への行政サービスの低下や社会保障の分野における現役世代への負担増など多くの問題が懸念されることから、住宅取得奨励金制度、結婚サポート推進事業、医療費助成事業、出産奨励金事業を実施している。企業誘致を推進し雇用の確保、就労者の増を図っていききたい。

(秘書公室長)

○消費者教育の充実について

Q、消費者生活環境が多様化、複雑化しているなかで、消費者教育を充実させる事が喫緊の課題となってい

るが、当町の取組みについて。

A、町民祭、だるま市等のイベントを通して啓発グッズの配布を行い住民への危機意識の向上を図っている。小・中学校では、リーフレットを配布し理解を深めるように努めている。今後、関係機関と連携し危険度の高い高齢者及び若年層を中心に研修会を開催していききたい。

(秘書公室長)

○消費者センターの相談窓口について

Q、住民からの相談に答えられるためにも、更なる充実が必要であると思うが、当町の取組みについて。

A、今年度から月2回開設しているが、悪質業者から守るため、消費者教育と啓発を引き続き行い、センターの設置や近隣市町との共同や広域化による専門相談員の配置等を検討し、関係機関と連携を密にして対処していききたい。

(秘書公室長)

議席4番 櫻井 実 議員



○境町ふるさと納税制度について

Q、来年度から地域活性化を図るため本制度が拡充されるが記念品(お返し)の現況と今後の取り組み方は。

A、昨年度までに約30万円の寄附金をいただき、さしま茶を記念品に送った。本年、パソコン、スマートフォン

やコンビニ収納等で簡易に寄附が出るように利便性を高めた。さらに、町内の記念品協力企業を募る説明会を開き、カタログ等で町の魅力を発信し自主財源の確保につなげたい。

(町長、秘書公室長、まちづくり推進課長)

○境町歴史民俗資料館について

Q、入館者の現況及び魅力化の対策は。

A、23年度1392名、24年度1036名、昨年975名と若干減少傾向にある。ブース内を明るく工夫をしたり、毎年、收藏された資料を基に企画展を実施している。今後、常設展のほか他の資料館に働きかけて特別展や企画展についても検討したい。

(教育次長、生涯学習課長)

○放課後児童クラブについて

Q、来年度、3年生までから6年生までへと受け入れが拡充される「なのはな児童クラブ」のニーズ調査結果とその対策の進捗状況は。

A、現在、70名定員に対して全学年の児童のうち94名の希望があり、国の補助金を受け入れた境小学校構内への施設の建設と空き教室の利用の2点で検討を進めている。

(福祉部長、子ども未来課長)

議席3番 青木 徹 議員



○教育関連について

Q、小中一貫教育、道徳教育、小学校の英語教育について教育長の考え方を聞いた。

A、小中一貫教育については、義務教育九年間の学びの連続性を重視し、小中学校が連携して指導を行っている他の地域を参考にして研究に取り組んで参りたい。さらに高等学校とも連携を図って参りたい。道徳教育については、自立した一人の人間として人生を他者と共によりよく生きる人格の形成を目指すとともに、教育の根本に据えられるものだと考えておりますが、現状は、理念の共有や教員の指導力など多くの面で課題

が存在していると認識しています。

小学校の英語教育については、県主催の「小学校教員の英語力向上研修」に積極的に参加を促しています。

(教育長)

○農業関連について

Q、米価下落に対する町の取り組みについて。

A、町として、独自の対応は不可能ですが、国が本年度実施予定をしている、農業所得の向上を図るための高性能機械の導入や6次産業の構築を図るための施設の合理化や高収益作物への転換などを、総合的に支援する「攻めの農業実践緊急対策事業」に積極的に取り組みます。

(建設農政部長)

○建設関連について

Q、圏央道建設における生活道路の消失問題について。

従前の道路が果たしていた機能確保をすることになっていくので、機能確保が出来ていない付け替え道路はないと考えています。多くの工事が発注されているので、住民の皆様が、一日も早い供用開始のためご理解ください。

(建設農政部長)

